様式第3号

自己評価報告書（最終報告）

コース等名	生活・健康系コース （技術・工業・情報）	記載責任者	畑中　伸夫

■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ．学長の定める重点目標

Ⅰ－1．大学院の学生定員の充足

貴専攻・コースにおける過去5年間の大学院学生定員充足状況を分析・検証し，達成目標を設定するとともに，どのような具体的方策を立てて，目標達成に向けて取り組んでいくかを示して欲しい。

1．目標・計画

生活・健康系コースの入学者数が本コースの募集人員25人以上になることを目標とし，以下の措置をとる。
①本コースの入試方法が24年度入試から実技試験を取り入れた方法に変わる。そこで他大学からの受験生に周知するように実技試験の方法をWeb等で公開する。
②本コースの教育課程と研究内容を視覚的に分かりやすく伝え，在学生の活躍する様子等と研究指導教員の紹介を盛り込んだ案内パンフレットを作成する。
③本コースのWebコンテンツをタイムリーなものとなるように定期的に更新する。
④技術，工業，情報免許等の教職課程をもつ大学等を訪問し，本コースを紹介する。
⑤教員研修等に参加している現職教員に対して本コースを紹介する。

2．点検・評価

①受験生の出身大学・学部が多様になっている状況に対応して，受験生の実力が発揮されやすくするために，選抜方法を筆記試験から実技試験へ変更した．このことを他大学からの受験生に広く周知するために，実技試験の方法をwebで公開するなど宣伝に努めた。
②大学院生募集のためのコース独自の案内パンフレット（カラー12ページ構成）の23年度版を作成し，広報活動に利用した。
③コースのwebページを改善するために，新入生から意見を集めた。また，従来曖昧であったコース内の担当者を正式に決め，意見や感想が集中される体制を組織的に整えた．
④他大学等を訪問し，本コースの紹介を行った．平成22年度実績に比して，大学として訪問されたため，コースの訪問活動から外した大学がある．平成22年に引き続き，以下の大学等を訪問し，本コースを紹介，入学を勧誘した．職業能力開発大学校（九州，近畿，中国，四国），明治大学，中央大学，法政大学，工学院大学，東京理科大学，芝浦工業大学，近畿大学（産業理工学部），摂南大学，大阪電気通信大学，広島国際大学，広島工業大学，高知工科大学．また，平成23年度に新たに開拓した訪問先は以下の通りである．東京電機大学，駒澤大学，帝京大学，明星大学，北九州市立大学，西日本工業大学，福岡工業大学，九州産業大学，高松大学，高知県立大学，大阪工業大学。⑤県総合教育センターの技術・家庭科（技術分野）研修講座Ⅱや産業・情報技術等指導者養成研修等の参加者に対して本コースを紹介した。

Ⅰ－2．学生支援の取り組み

学生の卒業時・修了時における「質」保証のためには，常日頃から学生に対する支援を推進していくことが必要である。
貴専攻・コースにおけるこれまでの学生支援の取り組み状況を分析・把握し，本年度どのような学生支援の取り組みを行うか，具体的な方策を示して欲しい。

1．目標・計画

①卒業研究および修士研究に対して，主指導教員と副指導教員による研究指導体制を維持する。
②卒業研究ならびに修士研究の前準備としての中間発表制度を継続し，卒業論文ならびに修士論文の質的向上を図る。

２．点検・評価

①卒業研究および修士研究に対して，主指導教員と副指導教員による研究指導体制を取ることによって，きめ細かい指導を行うことができた。
②卒業研究ならびに修士研究の前準備として，年度末に学部3年生，修士1年，長期履修修士2年を対象としてポスターセッションの形式で中間発表会を実施した。これによって，学部ならびに修士の最終年度に実施する研究の方針や課題が明確になり，卒業論文ならびに修士論文の質的向上を図ることができている。

Ⅱ．分野別

Ⅱ－1．教育・学生生活支援

１．目標・計画

①コースに所属する大学院生と留学生の増加に合わせて，院生室の利用方法を見直し，利便性を確保する。
②長期履修院生の増加に伴って学部授業の受講者数が非常に多くなることから，授業の実施方法を工夫する。

２．点検・評価

①院生室は家庭科との共同使用であるが，網戸の改修や換気扇の設置など住環境の整理整頓・整備を進め，学生数の増加に対応した．しかし，著しく狭隘であり，全学的な検討が求められる．
②長期履修生の増加に伴う学部授業の受講者数増加は，実習や実験を伴う授業において困難をきたしている．授業内容の変更や実習方法の工夫により教育レベルの低下はまねいていない．しかし，担当者の負担は大きく，実施内容によっては危険を伴うこともあり，制度的な改善が強く望まれる．

Ⅱ－2．研究

１．目標・計画

①教員各人の研究環境の改善に努め，必要に応じて教員相互の研究交流を促進する。

２．点検・評価

①本コースが位置する自然棟2階にほとんどの教員研究室を集約することができ，教員相互の研究・教育に関する交流が進化している。
②恒常的に実験室が不足しており，研究活動のために会議室や図書資料室等の臨時使用が続いている．全学的な検討が望まれる．

Ⅱ－3．大学運営

1．目標・計画

①学生の定員確保，就職支援など，大学の重要課題の解決に貢献する。

2．点検・評価

大学院の定員確保のためにコース独自のパンフレット作成，大学訪問，入試方法の継続的な見直しなどを行った結果，大学院の24年度入学生は生活・健康系コース全体で34名，技術・工業・情報コースで10名となり，募集人員を大幅に上回る状態となり，大学の重要課題の解決に貢献した。

Ⅱ－4．附属学校・社会との連携，国際交流等

1．目標・計画

①附属学校における教育実習の支援や共同研究等を推進し，連携協力関係を維持する。
②教員免許状更新講習及び学校教員等を対象とする研修を実施する。
③コースに所属する留学生と日本人学生の交流を促進する。

2．点検・評価

①本コースでは殆どの教員が教育実習中に附属学校を訪問し，指導助言を行っている。また，附属中学が開催する各種の研究会には多くの教員が参加している．附属中学校や公立中学校との共同研究や授業支援を実施した。
②県総合教育センターの技術・家庭科（技術分野）研修講座Ⅱや産業・情報技術等指導者養成研修等を実施した。
③平成24年度大学院受験のために研究生として在学していた4名の留学生と積極的な国際交流を推進した．

Ⅲ．本学への総合的貢献（特記事項）